

る。JA松本ハイランド波田支所にて実施報告を行い、今後は作業行程の状況を調査していく方針である。

(4) 成果の公表(活動発表・論文執筆等)

③については、長野日報で2回新聞記事として掲

載された。

④については、卒業論文発表会で古林大輝さんが口頭発表を行い、次年度以降体操を考案し、実践後に再度発表予定である。

8. 地域民話を取り入れた絵本童話の作成と活用による地方の文化創生

人間健康学部スポーツ健康学科 山崎 保寿

(1) 活動計画

① 課題意識

長野県は民話の宝庫であり、地方に伝わる民話が数多くある。松本市においても、奈川地区、安曇・乗鞍地区に古くから伝わる民話がある。本活動は、地域の民話の内容を創作童話として再構成し、地域の幼稚園、小学校等での読書活動に活用できるようにすることによって松本大学と地域との連携を深めていくことを目的とする。

② 進め方

長野県立図書館をはじめ地域の図書館等所蔵の民話本を活用したり、地域に伝わる民話を拾い集め、古老への取材も加えたりして、一つひとつの民話を再話という方法で物語に整えていく。それらをまとめ、幼稚園児、小学校児童向けの副教材冊子として編集し、印刷製本する。作成した冊子を地域の保育園や児童センターに提供し、子どもの読み聞かせに利用してもらう。また、冊子を伊那、塩尻、安曇野、池田町等の図書館、民話を収集した地域の小中学校(松本市立大野川小中学校)に趣旨を説明したうえで寄贈し、地域に本活動の成果を還元していく。

③ 期待される成果

再話という方法で地域に残る伝説を民話の形にすることによって、地域の人々や子どもたちが読みやすく、地域を見直すことにつながる。再話とは、地域に伝わる民話や昔話をもとにして、新しい物語を創作することである。再話を行うことで、地域を見直したり、子どもたちの想像力をふくらめたりすることができ、地域における文化創生の一助にすることができる。

また、作成した民話絵本を配布することによって、研究活動の成果を広めるとともに、松本大学と地域との連携を一層強めていくこととする。民話絵本の

内容に、地域の自然、地名等を記すことによって読者が改めて地域を知る機会とする。

(2) 活動内容

高遠、奈川、安曇野、乗鞍等の民話を収集し、これまで物語の作成が少ない善五郎の滝に関する民話を再話の方法で作成した。再話の方法については、協働活動者である宮下智恵美(大野川小中学校教頭)氏の助言を得た。物語を山崎が創作し、挿絵を中西悠(松本大学図書館)さんが作成し、民話絵本の童話としてまとめた。読者層として、幼稚園から小学校低学年の年齢層を想定した。

作成した民話絵本の冊子を地域の保育園(松本市立新村保育園)や児童センター(松本市新村児童センター)に提供し、子どもの読み聞かせに利用してもらった(松本市立新村保育園での読み聞かせ2022年3月23日写真①②)。また、民話絵本の冊子を伊那、塩尻、安曇野、池田町等の図書館(伊那市立高遠図書館、長谷公民館図書館2022年3月26日写真③④)、民話を収集した地域の小中学校(松本市立大野川小中学校2022年3月14日写真④)に寄贈した。

(3) 活動の成果

本研究の遂行に当たって、上記図書館・地域での資料収集のほか、次の方々にも協力いただき、地域連携の成果として作成した民話絵本の冊子を寄贈した。山本まさみ(児童文学作家、松本大学図書館)、福島真(乗鞍地区旅館福島屋主人)、寺島洋子(松本市立新村保育園園長)および後任園長、新村保育園の教職員・保護者、宮下智恵美(塩尻中学校教頭、前大野川小中学校教頭)、松本市新村児童センターの職員、松本市役所安曇支所、松本市役所奈川支所・奈川図書館、松本大学生協カフェテリアの方々。新村



写真①



写真④



写真②



写真⑤



写真③

保育園には20冊、新村児童センターには10冊の冊子を寄贈し、一定数の子どもと保護者にも民話絵本が届くよう配慮した。こうした寄贈により、研究成果を地域へも還元することができた。

また、地元の情報収集により、地名、自然に配慮するとともに、大野川の村では、番所大滝、善五郎

の滝、三本滝などの滝を荘厳な場所として大切にしてきたことを民話絵本の冊子に記した。

なお、寄贈先には、民話絵本の内容等に関するアンケートを依頼したが、コロナ禍と回収時期の関係により、結果の分析については次年度の課題となった。教員志望の学生とともに絵本の読み聞かせの活動を行うことは、コロナ禍のため実施できず次年度の活動とした。

(4)共同活動者

- ・寺島洋子(新村保育園園長)および後任園長：民話絵本の創作過程での助言、成果の地域活用・還元、保育園保護者への連絡等
- ・宮下智恵美(大野川小中学校教頭、塩尻中学校教頭)：地域の情報提供・連絡、物語の確認、再話の趣旨、成果の地域還元

(5) 成果の公表(活動発表・論文執筆等)**【論文】**

- ・山崎保寿「地域にある小さな図書館の存在意義」教育課程研究会『教育課程研究論集』第8号、2020年10月、pp.99-100(2021年度の活動に関する先行事例)

【活動発表】

- ・山崎保寿「地域民話を取り入れた絵本童話の作成と活用による地方の文化創生」第10回松本大学教員研究発表会、於松本大学、2022年2月24日
- ・山崎保寿「民話絵本と地域素材の活用について」松本大学有志研究会、2022年3月1日

9. 地域における実践的マーケティング活動

松商短期大学部商学科 金子 能呼

(1) 活動計画

担当科目がマーケティングであり、学生とともにマーケティングの知識を活用し、実践に移すことを主眼に置き、活動を展開する。

主力の活動として位置づけているのが、おにぎりの商品開発である。地元JAから依頼があり、JAのブランド米を使用したおにぎりの商品開発を13年前より続けている。これまでの成果を踏まえ、活動内容をさらに充実化することができるよう、オリジナリティ溢れるレシピづくりに挑戦するつもりである。学生に対しては、地域での実践的な活動やアクティブラーニングを導入することにより、主体的かつ能動的に学習する力が身につくことが期待される。学生が得られる教育成果を大きくするとともに、生産者や地域へのフィードバックとして、レシピの紹介やレシピ集の配布など、より積極的に行いたい。

また、2014年からバレンタインスイーツの企画・販売のプロジェクトにも関わることとなり、継続的な取り組みとなっている。学生は地域のパティシエたちと共同でスイーツを企画し、実際にお客様とコミュニケーションをとりながら販売する。お客様に喜んでいただけるよう創意工夫することで学生が鍛えられるとともに、売り上げに直結する活動であり、良い意味で緊張感を伴う実践的な取り組みである。地域の食材をおいしいスイーツとして販売することで、地産地消に貢献することにもつながると考える。

以上の活動であるが、コロナ禍において実施困難と判断される場合も、活動目標を達成することができるよう、地域に目を向け、地域の企業と連携することを前提として、商品の企画・販売を行うことを予定している。目的のための手段については柔軟に変更することを視野に入れ、新たな挑戦や試みを積

み重ねるよう努めたい。

(2) 活動の内容と成果

卒業研究のテーマであり、主力の活動として位置づけているおにぎりの商品開発については、昨年度に引き続き、今年度も学内で試作や試食をすることが難しい状況であった。そこで、自宅で試作を繰り返し、ゼミナールの時間にはオンラインまたは対面にて自分のレシピを発表し合った。

発表されたレシピをほかの学生が試作し、改良につながるように感想やアドバイスを伝え合うということを繰り返した。今年度も昨年度に引き続きテーマを「インスタ映え」としたため、おいしいだけではなく、見栄えも考慮したレシピづくりに取り組んだ。

学生はパワーポイントを使用して自分のレシピをプレゼンテーションし、その後チームごとに議論の場を設け、レシピの改良を図った。今年度は試作ができなかったものの、毎回のようにプレゼンテーションを行ったため、わかりやすさを重視したまとめかたや見せ方の工夫が見られ、表現力が強化されたことが最大の成果であった。おにぎりづくりについても、自宅で試作に取り組む時間が確保されたこともあり、非常にクオリティの高いレシピもいくつか完成させることができた。

バレンタインスイーツの企画についてもプレゼンテーションを行い、コンペの段階までは進めることができたが、その後はコロナの警戒レベルが上がってしまい、イベント自体が中止となってしまった。とはいえ、バレンタインスイーツの企画は1年生も挑戦することができ、多彩な提案がなされた。

さらには、今年度初めての試みとして、1年生が岡山県吉備中央町の米粉ピザグランプリに出品する